

杉山● それでは、キーノート・スピーチを鳥取大学地域学部教授の野田邦弘先生にお願いいたします。野田先生は、横浜市の職員として文化行政に関わっておられ、2003年のクリエイティブシティ・ヨコハマ」の策定、その後の「横浜トリエンナーレ」などの開催を担当されました。現在は鳥取大学教授として、文化政策や創造都市論を専門にされております。

キーノート・スピーチ 「創造産業とアーティスト・イン・レジデンス」

日時 2016年10月22日（土）13:20~13:40

場所 滋賀県立陶芸の森 甲賀市信楽産業展示館ホール

語り手 野田邦弘（鳥取大学地域学部教授）

「欧州文化首都」は、1985年にギリシャのアテネで「芸術のオリンピック」としてはじまり、いまでもつづいているプログラムです。ヨーロッパの指定された都市が1年をとおして文化事業をつづけるプログラムです。

この開催都市のなかで、うまくいった都市では地域の活性が見られます。たとえば、都市の知名度が上がることで、市民がシビック・プライドをより強くもつようになります。とくに知識労働者、つまりクリエイティブな人びとにその効果が大きいことが明らかになりました。欧州文化首都の開催は、「創造産業」や「創造階級」を吸引するマグネットの役割があると考えられるのです。さらに、社会包摂機能があるとも指摘されています。

こういう流れから「創造都市（クリエイティブ・シティ）」という考え方が、1990年代の半ばくらいから出てきました。

〈資料6〉は、20世紀の100年間にアメリカの農業やサービス業、力仕事などの労働に従事する人口がどう変化したかを示すグラフです。

リチャード・フロリダという研究者は、「創造階級（クリエイティブ・クラス）」という概念を提唱しました。科学者や芸術家、医師、弁護士などが創造階級で、アメリカには30パーセントもいると指摘しました。そして、そのような創造階級がたくさんいる地域は発展し、彼らから見放されている地域は衰退すると考えました。都市経営の側には、「こういう創造階級をいかに引きつけるか」という魅力づくりが問われるのです。これが新しい経済、つまり「創造経済（クリエイティブ・エコノミー）」の考え方につながるのです。そこでは、新しいアイデアをどう生みだすかが重要な要素になります。

ピーター・ドラッカーは、知識はもっとも重要な経営資源であるといいました。しかし、知識は創造性の道具や材料にすぎません。現代の経済の本質は、「知識経済」よりも「創造経済」というほうがより正しいだろうと、私は考えます。

ここでいう「創造経済」の特徴は、所得を増やし、雇用を増やし、輸出収入を増やすことです。その結果、社会的包摂、文化的多様性、人的能力開発などを押し進めることになります。課題もあります。それは中間層が欠如することです。少数のグローバル企業が勝利するいっぽうで、たくさんのローカルな微小企業も存在するという二極分化が起こりま

す。「創造経済」ではなにがヒットするかわからないし、Winner-takes-all——勝者が総取りするマイナス面もあります。

もう一つの特徴はクラスター化することです。人びとが集い、集積するのです。クラスターの知識と専門性は、企業やプロジェクトの枠を超えて絶えまなく地域内で循環し、更新されます。そうすることで、その産業の最先端にいたることができるのです。また、クラスター化はイノベーションを刺激します。この考え方をいち早く政策として実行したのが、イギリスのトニー・ブレア政権でした。〈資料 13〉にあげている 13 の職業分野が、イギリスが定義するクリエイティブ産業です。

〈資料 14〉具体的な都市の事例を見てゆきましょう。フランスのナント市は、造船業を基幹産業にしていたましたが、日本や韓国との競争に負けてしまいました。そんなときに、ジャン＝マルク・エロー氏が市長になり、約 20 年間市長を務めます。彼は、任期中に市の予算の 10 パーセント以上を文化の分野に投入します。たとえば、バスケット工場をアート・センターにつくり替えるなどをしました。

ナント市にはロワイヤル・ド・リュクス (Royal de Luxe) という大道芸人集団があります。その関係で、かつての造船所はいま、船ではなく人形をつくることになりました。商工地が観光地になっているのです。しかも、彼らはこの人形とともに世界ツアーまでしています。この結果、ナント市の評価は上がり、いまではフランス人が住みたいまちナンバーワンに選ばれるまでになりました。

エロー市長は、フランソワ・オランド大統領のもとで 2012 年から 2014 年までフランスの首相をも務めました。

ユネスコは「クリエイティブ・シティ・ネットワークを 2004 年にスタートさせました。いま、世界の 116 都市が加盟しています。〈資料 15〉は中国と日本と韓国の加盟都市の表です。いちばん上は工芸と民衆芸術のジャンルです。日本政府も、創造都市の取り組みを 7 年前からはじめました。日本の創造都市ネットワークは、2013 年に立ちあがりました。現在は 77 の都市が加盟しています。このネットワークに加盟していると、いろいろな情報交換ができます。まだ入っておられない県市町村がございましたら、ぜひ加入を検討していただければと思います。

このユネスコのネットワークをベースとしつつ、一昨年から「欧州文化首都」の東アジア版として「東アジア文化都市」がはじまりました。ことしは奈良で開催しています。

「創造経済」では、まずクリエイティブの活動が起こり、そこから新しい産業が生まれるというモデルを考えています。

最後にアーティスト・イン・レジデンスについて述べたいと思います。日本では現在、たくさんのビエンナーレやトリエンナーレが生まれていますが、かならずアート・プロジェクトを取りいれています。そこではアーティスト・イン・レジデンスというスタイルを採用しているのです。これにどういう効果があるかを、三つにしばってお話ししたいと思います。

まず、アーティストには新しい創作の環境が提供されることになります。〈資料 22〉第二に、そうすることで、アート・コミュニティに専門的な、人的なネットワークが広がり

ます。アート・コミュニティのなかに新しいネットワークが生まれて、それがまたアート・コミュニティを活性化するのはです。〈資料 23〉第三は、地域住民にたいする効果です〈資料 24〉。アーティスト・イン・レジデンスでは、かならず地域住民に開かれたオープン・スタジオや交流プログラムが用意されます。そのなかで住民はアーティストと交流します。日ごろは出会うことのないアーティストとの交流は、地域を活性化する、地域を元気にすることにつながる可能性があります。

〈資料 25〉は、社会学では有名な図式ですが、ロバート・パットナムの「社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）」という考え方です。アーティスト・イン・レジデンスは、コミュニティとコミュニティとをつなぐボンディング型、あるいは橋渡し型のソーシャル・キャピタルに相当すると思います。

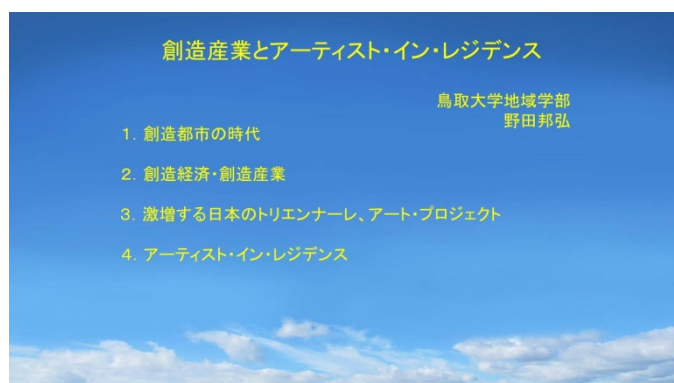
かつてのアーティスト・イン・レジデンスというと、時間と場所の観点からアーティストに場所を一定期間提供してサポートするカタチだったと思います。しかし、現在ではそれにくわえて、地域資源の観点が入っています。

鳥取県では、「鳥取藝住祭」というプログラムを展開しています。〈資料 30〉県内の 10 か所くらいの地域の住民たちが一つのグループを形成し、空いている場所を見つけるとそこに自分たちの決めたアーティストをよび、アーティスト・イン・レジデンスにするプログラムです。国内・国外からたくさんのアーティストが滞在して作品をつくっています。名前のおとり、芸術家に住んでもらうことが最終的なゴールですが、まずは制作環境を提供することを主催の目的としています。

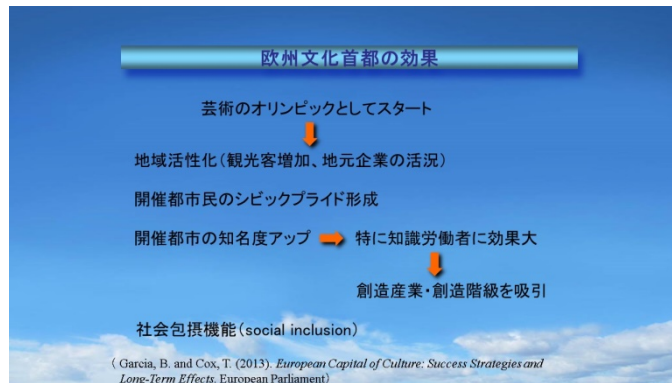
アーティスト・イン・レジデンスを展開することは、先ほど申しました「創造階級」が集まるきっかけとなります。これが「創造都市」や「創造農村」というクリエイティブな地域づくりにつながると考えられます。信楽などで、すでにできつつあると考えられます。日本でもアジアでも、こういう動きがどんどん加速しているのです。

こういう考えをみんなで議論しながら、創造的な地域づくりに役だててゆけたらと思います。ご清聴ありがとうございました。

杉山●本日のシンポジウムの副題「アーティスト・イン・レジデンスの可能性とその評価」に沿ったキーノート・スピーチでした。レジデンスの形成には時間がかかるかもしれませんが、うまくゆけば産業の振興につながるというご提言であったと思います。ありがとうございました。（了）



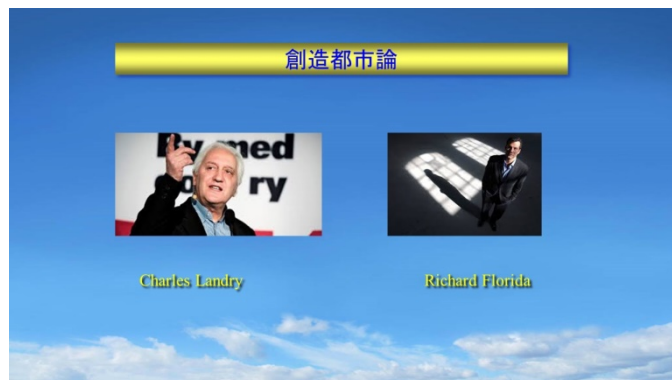
〈資料 1〉



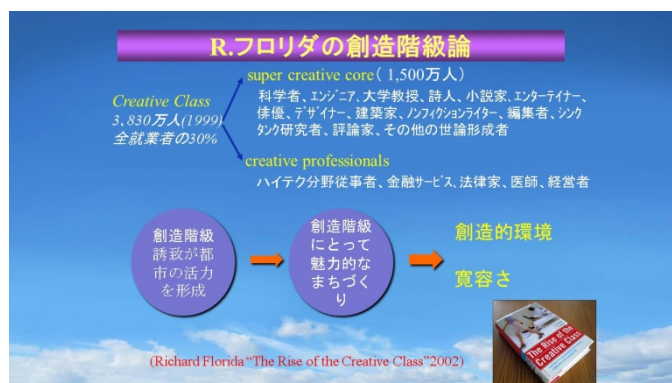
〈資料 2〉



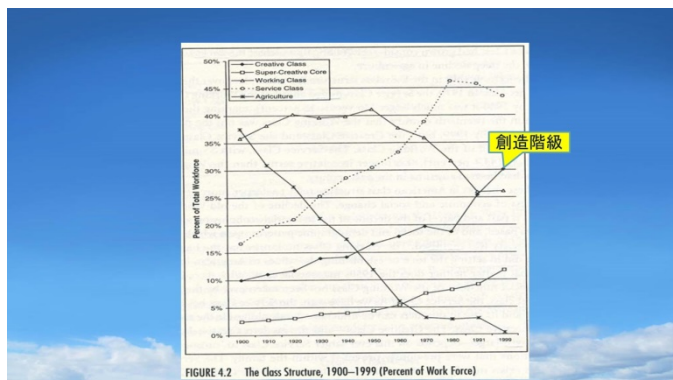
〈資料 3〉



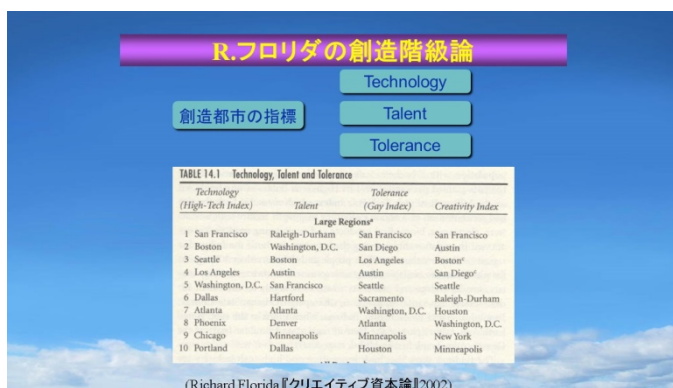
〈資料 4〉



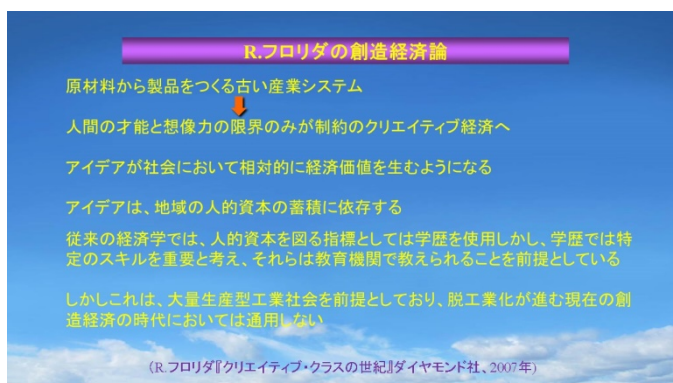
〈資料 5〉



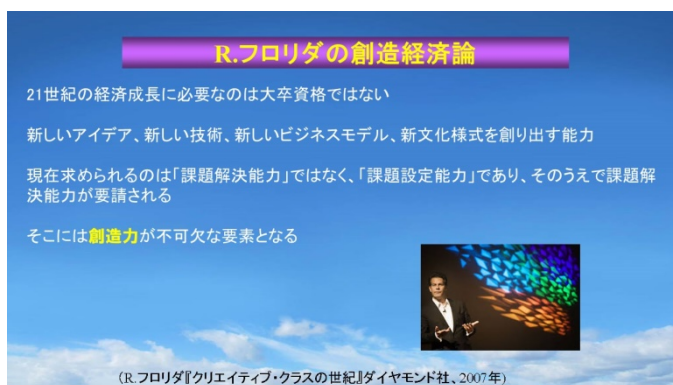
〈資料 6〉



〈資料 7〉



〈資料 8〉



〈資料 9〉

ベンチャー型ビジネス、SOHO型経営

脱工業化への産業構造転換は、公益的分野の拡大を進める一方、ベンチャー型ビジネスや企業と家計が一体化するSOHO型経営など、私的な営利企業をこえた新しい経営体が支配的になる

サービス業の場合、生産と消費が一体化するため大企業では対応できない(地域密着型)。また、労働集約型である点からも中小企業向きである

生産(川上)主導型の垂直的統合組織から、ベンチャーやボランティアといった個人が主体的に交流しあうネットワーク型社会への組織転換が起きている

(大内秀明『知識社会と経済学』日本評論社、1999年、p89)

〈資料 10〉

創造経済の誕生

ドラッカーは、「経済の基礎となる資源は、資本でも天然資源でもなく、……労働でもない。それは知識である」と言った

しかし、知識や情報は創造性の道具や材料に過ぎないので、現代の経済の本質は、「知識経済」ではなく、「創造経済」である

最初に「創造経済」と言ったのは、2000年8月のビジネスウィーク

2001年には、John Hawkins *The Creative Economy* 出版
経済とコミュニティが知識と情報の生産により活性化している都市 (Hawkins, J. (2001) *Creative Economy*)

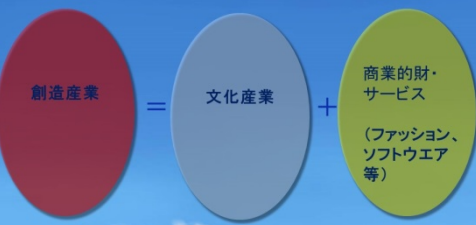
(Florida, Richard (2012) *The Rise of the Creative Class, revisited*
(井口典夫訳(2014)『新クリエイティブ資本論』ダイヤモンド社、p48)



〈資料 11〉

3. 創造都市政策の台頭とその背景

文化産業と創造産業



創造産業 = 文化産業 + 商業的財・サービス (ファッション、ソフトウェア等)

UNCTAD(2010) *Creative Economy Report 2010, A Feasible Development Option* (明石芳彦他訳(2014)『クリエイティブ経済』ナカニシヤ出版、p7)

〈資料 12〉

創造産業 (Creative Industries)

1997 イギリス文化メディアスポーツ省
Creative Industries Taskforce
個人の創造性、技能、才能内外根ざしており、知的財産の開発や活用による福祉や労働の創出の可能性のある産業群

広告、建築、美術、アンティーク、工芸、デザイン、ファッション、映画、ビデオ、双方向娯楽ソフト、音楽、舞台芸術、出版、ソフトウェア、コンピュータゲーム、テレビ、ラジオ、など

(DCMS (1998) *Creative Industries Mapping Document*)



〈資料 13〉

EU諸都市における文化による都市再生～ナント

都市圏人口56万人(フランス第5の都市)

戦後造船業で栄えるが70年代以降経済悪化(日本、韓国に抜かれる)

エロー市長(1989年当選)とボナン市文化局長(J.ラングの右腕)抜擢

- ・市予算の11%を文化予算。文化局職員600人
- ・観光資源の整備とプロムナード化(フルターニョ公城修復、や観光コース設定とライトアップ、若手アーティストの作品設置)
- ・リユー・ユニック(2000年):年間30万人の来場者
- ・フェスティバル(フォル・ジョルネ:2005年東京でも開催)

フランスー住みやすい都市(週刊誌ル・ボアのアンケート)

野田邦弘「クリエイティブシティへの道～ナント市と横浜市の数組みをといて考える」
 (企業メセナ協議会『メセナノート』26 2003年7,8月号)



〈資料 14〉

UNESCO Creative Cities Network (2004-)

	中国(8)	韓国(6)	日本(7)
工芸と民衆芸術	Hangzhou(杭州) Jingdezhen(景德镇) Suzhou(蘇州)	Icheon(利川)	Kanazawa(金沢) Sasayama(篠山)
デザイン	Shanghai(上海) Shenzhen(深圳) Beijin(北京)	Seoul(ソウル)	Kobe(神戸) Nagoya(名古屋)
映画		Busan(釜山)	
食文化	Chengdu(成都) Shunde(順徳区)	Jeonju(全州)	Tsuruoka(鶴岡)
文学			
音楽			Hamamatsu(浜松)
メディアアート		Gwangju(光州)	Sapporo(札幌)

〈資料 15〉

文化庁の文化芸術創造都市への取組

【趣旨】文化芸術の持つ創造性を産業振興、地域振興等に領域横断的に活用し、地域課題の解決に取り組む地方自治体を「文化芸術創造都市」と位置付け支援

【開始】平成19年度

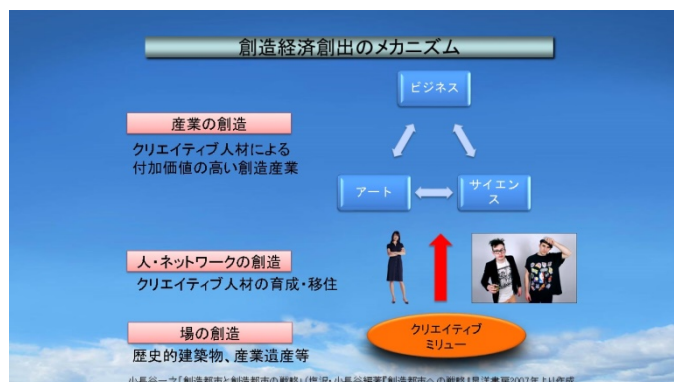
【事業】文化庁長官表彰〔文化芸術創造都市部門〕H19～
 文化芸術創造都市推進事業 H21～
 (1) 文化芸術創造都市推進事業
 (2) 創造都市政策セミナー
 (3) 創造都市ネットワーク会議等

〈資料 16〉

文化芸術創造都市(長官表彰)

平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
横濱市(神奈川県)	札幌市(北海道)	奥州市(北海道)	水戸市(茨城県)
金沢市(石川県)	豊田県(東京都)	松江市(広島県)	十日町市・津南町(新潟県)
近江八幡市(滋賀県)	福山市(広島県)	中之島町(長野県)	津島市(富山県)
伊賀市(静岡県)	萩市(山口県)	羽前市(大分県)	水戸市(長野県)
			津島市(長野県)
平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
仙北市(秋田県)	新潟市(新潟県)	八戸市(青森県)	美幌市(北海道)
鶴岡市(山形県)	大田市(岐阜県)	いわき市(福島県)	松本市(長野県)
山形市(山形県)	津島市(徳島県)	千曲市(長野県)	松山市(愛媛県)
鶴岡市(秋田県)		尾道市(広島県)	伊予市(愛媛県)
平成27年度			
新田町(北海道)			
高田町(北海道)			
豊中市(大阪府)			
竹田町(大分県)			

〈資料 17〉



〈資料 18〉

ビエンナーレ・トリエンナーレ(21世紀)

2000年 大地の芸術祭—越後妻有アートトリエンナーレ

2001年 横浜トリエンナーレ、北九州ビエンナーレ、BIWAKOビエンナーレ

2007年 神戸ビエンナーレ(2015年で終了)、中之条ビエンナーレ(群馬)

2009年 水と土の芸術祭(新潟市)、混浴温泉世界

2010年 あいちトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭

2014年 札幌国際芸術祭、いちばらアート×ミックス、道後オンセアート

2015年 PARASOFIA(京都)

2016年 さいたまトリエンナーレ、KENPOKU 茨城県北芸術祭、岡山芸術交流

2017年 奥能登国際芸術祭(珠洲市)

〈資料 19〉

アーティスト・イン・レジデンス

【定義】公的機関などが、各種の美術・芸術制作を行う人を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながらの作品制作を支援するプログラム(国際交流基金「Air-J: 日本全国のアーティスト・イン・レジデンス総合データベース」<http://air-j.info>)

【背景】近年インスタレーションを表現手段としたアートの発達により、アーティストが展覧会の現場で制作にたずさわる例が増加した結果、アーティストは、次から次へ違う国に滞在し、その国のギャラリーや美術館の中で制作するようになった(『美術から都市へ』鹿島出版会、1997年)

☞ ニコラ・プリオ「関係性の美学」
「アートは日常と対立するものとしてではなく、相互に関連するという。つまり日常おくる中で感じたことや、作られてくる『プロセス』そのものが重要である」(サムワンガーデン、『世界のアーティスト・イン・レジデンスから』ビー・エヌ・エヌ新社、2009年)

〈資料 20〉

Künstlerhaus Bethanien

☞ 19世紀に女性牧師補のための病院として建設

☞ 1970年病院。市は取り壊しを計画

☞ 占拠者たちが反対運動を展開

☞ そのなかのMichael Haerterは、1974年 Künstlerhaus Bethanien GmbHを設立

☞ オフィス、スタジオ、展示室

☞ これまで950人の世界のアーティストを支援

☞ 左翼による建物の南側の占拠(2005年)などのため、2000年別の場所に移転

☞ ここには、他に多くの創造産業のオフィス、小さなショップ、イベントスペース、などが集積

(Künstlerhaus Bethanienのホームページ 訳: 野田)




〈資料 21〉

アーティスト・イン・レジデンスの効果

〈アーティストにとって: for Artists〉

- ☞ 作品や創作のヒント、技術的サポートなど、「新たな創造に向けた専門的環境」を提供
- ☞ 普段は出会うことのないアーティスト、キュレーター、ギャラリスト、評論家など、今後の活動を支える「専門的・人的ネットワーク」の構築



↓

「プロフェッショナルとして活動できるキャリア」を形成

ニッセイ基礎研究所「諸外国のアーティスト・イン・レジデンスについての調査研究事業 報告書」(文化庁委託事業)、平成25年3月,p6

〈資料 22〉

アーティスト・イン・レジデンスの効果

〈アート関係者、文化施設、芸術機関等: アートコミュニティにとって: for Art Community〉

- ☞ アート・コミュニティの内外に「専門的、社会的なネットワーク」を生み出す
- ☞ 同時代の「芸術表現の革新」の原動力



↓

アート・コミュニティ全体としての「能力やポテンシャルの開発と向上」

ニッセイ基礎研究所「諸外国のアーティスト・イン・レジデンスについての調査研究事業 報告書」(文化庁委託事業)、平成25年3月,p6

〈資料 23〉

アーティスト・イン・レジデンスの効果

〈地域住民にとって: for Local Residents〉

- ☞ 地域住民に対してオープンスタジオ等でのアーティストとの交流や作品鑑賞＝芸術活動への参加や参画の機会を提供

地域全体の文化的潜在力の醸成や市民の地域活動への参画を促進



↓

創造的人材の滞在や市民との交流が、地域の活力創出や地域再生に貢献

ニッセイ基礎研究所「諸外国のアーティスト・イン・レジデンスについての調査研究事業 報告書」(文化庁委託事業)、平成25年3月,p6

〈資料 24〉

ソーシャル・キャピタル論

ソーシャル・キャピタル
個人間のつながり(社会的ネットワーク)とそこから生じる互酬性と信頼性の規範

ソーシャル・キャピタル2つのタイプ

結束型(bonding)
内向き、閉鎖的



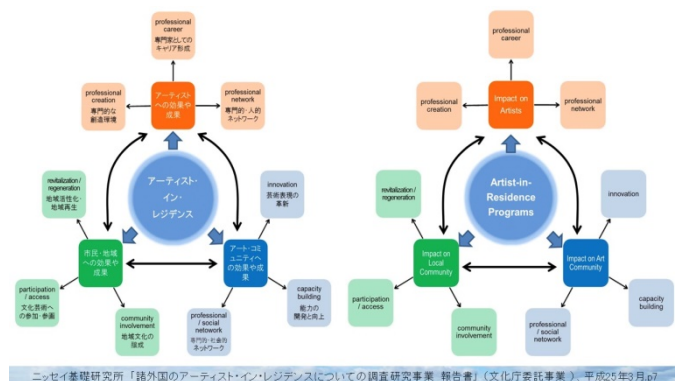
橋渡し型(bridging)
外向き、開放的



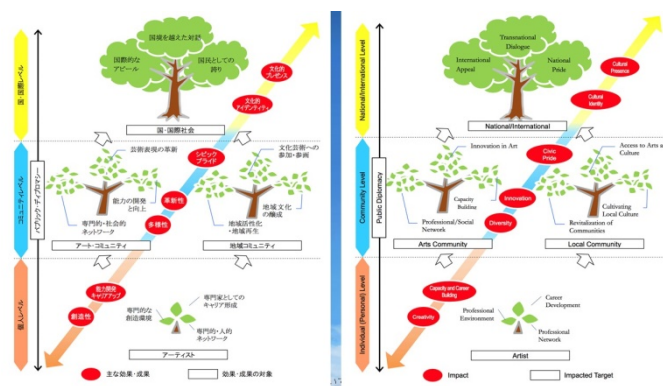
(R)バットナム『孤独なボウリング』柏書房 2006年

〈資料 25〉

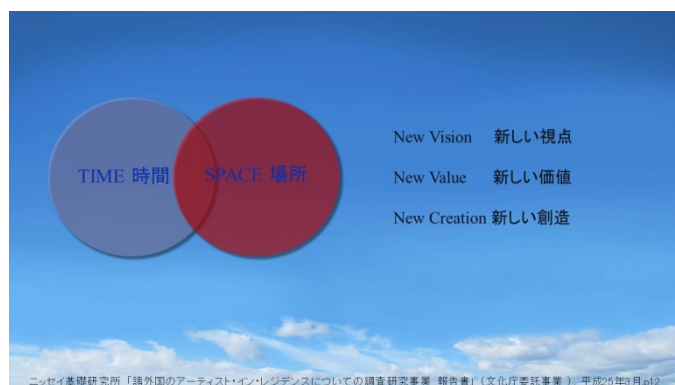
国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」
キーノート・スピーチ



〈資料 26〉



〈資料 27〉



〈資料 28〉



〈資料 29〉

国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」
キーノート・スピーチ



〈資料 30〉